

CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	関東シホハ物流(株)岩槻第2センター新築	階数	地上3F
建設地	埼玉県さいたま市岩槻区大字柏崎字下組197番外51番	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2021年9月29日
敷地面積	27,501 m ²	作成者	三好 星空
建築面積	12,862 m ²	確認日	2021年9月30日
延床面積	24,462 m ²	確認者	定森 淳一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 ・再生利用が可能な資材を多く採用し環境に配慮 ・更新、維持管理のしやすい設計		その他 特になし
Q1 室内環境 ・室に適した内装材や建具を採用し室内の空気質環境に配慮	Q2 サービス性能 ・天井高やリフトハブスを広く確保し快適性に配慮 ・防汚性の高い建材やSK・PSを設置する等維持管理に配慮 ・階高や空間にゆとりをもたせ将来の用途変更可能性に	Q3 室外環境(敷地内) ・外構緑化に加え悪影響を及ぼす外来種の不導入や敷地に適した緑地づくりをし緑の質を確保 ・通路の空地やピロティ・植栽を確保し暑熱環境に配慮
LR1 エネルギー ・BPI _m =0.91 ・BEI _m =0.60	LR2 資源・マテリアル ・省水型便器、自動水栓、節水コマ等の節水器具を採用 ・グリーン購入法における特定調達品目やEマーク商品を採用し非再生性資源の削減に配慮 ・解体時に容易に分別可能な工法や再利用可能なユニット部材の採用	LR3 敷地外環境 ・燃焼機器の使用がなく敷地内から大気汚染物質を発生しない ・建物高さや形状を工夫し敷地外への熱的な影響を低減 ・駐輪駐車場、荷物用車両スペース、複数出入口を確保し交通負荷抑制に努める

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
関東シオバ物流センター2センター新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									2.9
Q1 室内環境					0.30		-		2.5
1 音環境				2.4	0.15	-	-		2.4
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				2.6	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能				2.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				1.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				1.7	0.35	-	-		1.7
2.1 室温制御				2.5	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能				1.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				2.3	0.25	-	-		2.3
3.1 昼光利用				2.4	0.30	-	-		
1 昼光率				2.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				1.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				1.0	1.00	-	-		
3.3 照度		事務室照度500lx以上1000lx未満		4.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				4.0	0.25	-	-		4.0
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		内装座は全面的にF☆☆☆☆を採用		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				3.3	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		居室面積の1/30以上の自然換気有効開口面積を確保		4.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御		敷地内全面禁煙		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.7
1 機能性				3.7	0.40	-	-		3.7
1.1 機能性・使いやすさ				3.5	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	0.50	-	-		
2 高度情報通信設備対応		40VA/m ² 以上のOA機器用コンセント容量、Cat5eの情報配線を設置		4.0	0.50	-	-		
3 バリアフリー計画				-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.3	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		事務室天井高2.7m以上		4.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機の設置		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画				1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い建材を採用等		5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		維持管理作業が可能な設計等		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-		3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.2	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		換気機器に防振吊金具を採用		4.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要用途上位3種の2種以上にB以上を使用、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			4.2	0.30	-	-	4.2	
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-		
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1	5.0	0.40	-	-		
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	-	-		
			積載荷重4500N/㎡以上					
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-		
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.5	
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.91		3.8	0.20	-	3.8
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m]= 0.60		5.0	0.50	-	5.0
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5	
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-		
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価			-	-	-	-		
4.1	モニタリング		-	-	-	-		
4.2	運用管理体制		-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6	
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1 節水			省水型便器、自動水栓、節水コマが過半を満たす		4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6	
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.22	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			スタイロフォーム(断熱材)/再生クラッシュラン(路盤)		4.0	0.22	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			解体時に容易に分別可能な工法、再利用可能なユニット部材の採用		5.0	0.22	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			塗床材		4.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-		
1	消火剤		-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3	4.0	0.50	-	-		
3	冷媒		3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5	
1 地球温暖化への配慮			LCCO ₂ 排出率=80%		3.7	0.33	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6	
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の使用がなく敷地内から全く大気汚染物質を発生しない		5.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制	駐輪・駐車場、荷捌用車両スペース、複数出入口の確保	5.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-		
1	騒音		3.0	1.00	-	-		
2	振動		-	-	-	-		
3	悪臭		-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-		
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの過半を満たす、広告物照明はなし	5.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		